



留学報告書



↑グルノーブルの街

派遣国:フランス

派遣大学:Université Grenoble Alpes

期間:1 セメスター

<交換留学を目指した理由>

高校時代に大学入試のために倫理を学習してから、哲学に興味を持ちました。そして卒業してからも哲学について学びたいと考え、大学でも国際人間学専攻と哲学人間学専修を選択しました。フランスではバカロレアに哲学は必修であるほど哲学で有名な国であると聞いてから、本場で哲学についてより専門的な知識を学びたいと考えるようになりました。大学二年生・三年生でフランス語を履修していたこともあり、フランス語と哲学のどちらも学べるフランスへの留学を決めました。また、ペット大国であるフランスでは、先進的な動物愛護への取り組みも学べることもフランスへの交換留学を目指したきっかけのひとつです。

<授業>

授業が始まる前に1週間のフランス語の集中授業がありました。1日4時間、プレイスメントテストの結果をもとにレベル分けされたクラスで、グループ発表や、リスニング、リーディングなどを行いました。同じレベルであっても、周りの留学生(特にヨーロッパ圏からの留学生)は知っている単語量や、フランス語の能力の高さに加えて、積極性があるため、とても焦り不安になりました。先生は授業の中で何度も分からない単語はないか、質問はないかと聞いてくれたので、その時に躊躇せずに手を挙げて質問することを意識しました。実際に授業では、英語で行われるアメリカの歴史の授業(Civilisation)と、留学生向けの授業(FLE)と、フランス語で行われる授業を二つ(Femmes de lettres, Theorie et critique litteraire)を履修しました。FLEは、フランスの歴史、行事、学校、地理、労働システムなど様々なことについて学びました。留学生向けの授業なのでペースもそこまで早くなく、先生も質問をすると分かりやすく言い換えたりしながら答えてくれました。様々な国の学生とフランス語でディスカッションしたり、発表できたりして、フランスについて

の知識だけでなく、フランス語力の向上にも繋がりました。最後の授業では街へ行って、ガイドの方にグルノーブルの旧市街のツアーをしてもらいました。Civilisationは、週に二日あり、一日は講義、もう一日は講義に関連する文献を読む授業でした。授業内容への興味ももちろんありましたが、様々な国の人の英語に慣れてみたいという理由もありこの授業を履修しました。現地の学生の英語の能力の高さに圧倒されました。フランス語で行われる授業はどちらも講義形式でした。加えてどちらもスライドやレジュメはほとんどなく、先生が二時間講義したことをひたすらメモする必要がありました。毎回の授業後はメモや先生におすすめしてもらったサイトなどをもとに授業の復習に取り組みましたが、現地の学生と同じペースで文学や哲学などについて学ぶのはとても難しかったです。テストは二回あり、留学生は辞書の持ち込みを許可してもらえました。

<生活>

寮はキッチンが共用ですが、シャワーやトイレが付いた自分の部屋がありました。キッチンは平日に清掃員の方が掃除をしてくれるため綺麗な状態で使えるときもありますが、休日は汚い時が多かったです。ルームメイトではないためルールや決まりを作ることもできず、我慢するしかありませんでした。寮のテクニカルトラブルはすぐに対応してもらえました。空き巣事件が何度か起きたので、自分だけの部屋と言えども貴重品の管理は徹底するようにしていました。グルノーブルは自然が多く、街の雰囲気も落ち着いていて、とても生活しやすかったです。中心街まではトラムで 20 分程度、学校まではトラムで 10 分程度でした。学生街や中心街を外れると少し治安が悪い地域もありますが、比較的治安はよかったです。冬季オリンピック開催地であったため夏は涼しく冬はとても寒いと思っていましたが、夏は日本と同じかそれ以上に暑い日もたくさんありました。冬は確かに寒いですが、雪はあまり降りませんでした。冬は基本的に天気はずっと悪いです。

<学校以外での活動>

留学生のための IntEGe という団体のイベントによく参加をしました。International dinner では、自分の国の料理を作って持ち寄りみんなで食べました。私はおにぎりや海苔巻きを作ったのですが、とても好評であっという間に無くなってうれしかったです。他にも、ハロウィンパーティーやバスティーユ城塞までのハイキングにも参加をしました。また、日仏交流の団体のイベントにも参加をしました。バーベキューでは、日本に興味があるフランス



↑日仏交流のバーベキューで撮った写真

人とたくさん関わるのができたり、フランスの伝統的なお菓子を食べたりすることができて楽しかったです。同じ学部へ留学していたイタリア人の学生とも仲良くなりました。彼女は日本に興味があり、日本について色んなことを話したり、日本料理屋へ一緒に行ったり、お互いの国の料理を作りあったりしました。日本の宗教は複雑ですが、会話に出てくることはあるのでしっかり理解しておいてよかったと思いました。日本がこんなに人気であることは実際に日本を出るまで実感したことがなかったので、様々な人との関わりを通してより日本の素晴らしさを感じることができたと思います。

<大変だったこと、苦労したこと>

寮や銀行の手続きにとっても苦労をしました。寮にはフランスの銀行口座がないと入れないと言われ、銀行には口座開設には住居証明が必要だったため、どうしたらいいのかわからずとても困りました。結果的に、入寮後すぐに口座を開くことを約束して、寮に入ることができました。

また、フランスは水が日本と違い硬水であるため日本の洗顔料と相性が悪く、肌がとても荒れてしまいました。何をしても治らず落ち込んでいたのですが、同じ悩みを持っていた友人から拭き取り化粧水に変えたら良くなったと教えてもらいました。変えたら一週間くらいで改善されました。フランス語で行われる授業についていくことやテストにもとても苦労をしました。授業はレジュメやスライドがほとんどなく、二時間教授が話すフランス語を聞いてメモを取る必要があるのですが、専門的な用語が多いのに加えて現地の学生と同じスピードで授業が進むため毎授業前後で予習復習は欠かせませんでした。不安なことやわからないことは、先生に直接またはメールで尋ねたり、現地の友人に助けてもらったりしました。

<ここに留学してよかったこと>

グルノーブルアルプ大学は留学生の数がとても多く、またグルノーブル自体多文化が共存する街であるため、様々な国や文化の人と出会うことができました。大学では特にヨーロッパやアフリカからの学生が多く、日本ではそこまでたくさん接したことがなかったため、彼らと知り合える貴重な機会が得られたという点でフランスを選択してよかったと思います。また、グルノーブルアルプ大学は学部が多く、他学部の授業も選択可能であったため、色んな授業が履修できました。私は哲学と別の分野を同時に学べる授業を履修したいと考えていて、以前から文学に興味があったので、その両方を学べる授業を選択しました。他にも哲学と歴史、哲学と映画など、とにかく様々な側面から興味のある分野について学べる環境でした。

<日本と大きく異なる点>

コミュニケーションと時間への正確性は大きく異なると感じました。フランスではスーパーでもレストランでも郵便局でも店内に入るときと出るときに必ず挨拶をします。これは日本にはない文化であるため初めは意識しないと忘れてしまうこともありましたが、とてもいい文化だと思いました。時間に関しては定刻になってもトラムが来ないこと、また人がいなければ早めに出発してしまうことはとてもよくありました。また一度だけ、乗るはずで遅延していた電車が突然なくなってしまったことがありました。フランスらしいと言えばそうなのですが、とても驚きました。

<印象深かった出来事>

現地の方から日常的に道などを聞かれる経験はとても印象に残っています。最初の方は、なぜ周りにたくさんフランス人がいるのにわざわざ留学生の自分に訪ねてくるのかが本当に疑問でした。日本で道や電車が分からなかったら、私だったら絶対にその地についてよく知っていそうな日本人に声をかけると思っていたからです。しかしフランスで生活をするうちに、フランスには本当に多くのルーツを持つ方が住んでいるので、アジア人＝外国人という決めつけがないということに気が付きました。最初に道を聞かれたときは少し困りましたが、人種に関係なくフラットに接してくれるフランスの文化に気が付けたとても印象に残っている経験です。

また、日本がなぜ左側通行なのかについて質問されたこともとても印象に残っています。日本に興味のある学生は、こちらが疑問に感じなかったことも不思議に感じることに気づかされたのと、日本独特の文化や習慣についてはやはり答えられるようにしておくべきだと感じさせられました。

<留学後の変化>

一つ目は語学力です。日本にいるときはフランス語独特の発音を聞き取ることがとにかく苦手で、スピーキングになると簡単な会話程度しかできませんでした。しかし最後のフランス語の講義で、先生の言っていることが理解できていると実感した時や、友人とうわべではなくプライベートの話をフランス語で話せたときに、フランス語の力が大きく伸びたなと思いました。二つ目は、臨機応変な対応が取れるようになったことです。日本にいた時やフランスに来たばかりのころは、想定外のことが起こるとすぐに動揺していました。しかしフランスは、電車が突然全運航中止になるなど、想定外のことが多すぎて、何かが起きてもしようがないと受け入れ、冷静に対応できるようになりました。三つめは、自分との向き合い方です。これまでは何かストレスを感じたときや不安な時、不満や不安をとにかく人に話すことで発散してきました。フランスでは一人暮らしであり、自分自身と向き合える時間も多かったので、今は以前よりも自分の中でもややもやをうまく消化できるようになったのではないかと思います。最後に日本についての考え方です。日本のアニメや漫画が人気であることは以前から知っていました。しかし本屋の一部分全体が日本の漫画でいっぱいであったのを見た時、想像以上に人気であることを実感しました。日本食屋がたくさんあったり、日仏交流の団体があったり、日本語が全く話せないけど日本にとっても興味があるヨーロッパ圏の学生とたくさん接したりして、初めて客観的に日本がどうみられているのかを認識しました。それによって、もっと日本を好きになったし、もっと日本について知りたいと思うようになりました。

<今後の目標>

卒業後は、様々な国や価値観の人と関われる接客業に就くつもりです。大学で学んだり、留学を通して知った多様な価値観や考え方は、多様な価値観のお客様それぞれに合った対応をすることや、どのような異常事態が起きても柔軟に対応することに役立てていきたいと考えています。また、語学力の上昇を形として残すためにも、DELF の B1 に挑戦したいです。